

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名（注1）	No.	自治体提示の地域課題名 地域資源・魅力を活かした地域ブランド形成（人や文化の融合）	自治体名 沖縄県西原町
チームがつけたアイデア名（公開）（注2）	地域内のつながりが街の魅力に「ワクワクトーク」		

（注1）地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名（公開）	NSBP ⁺ （エヌエスビーピープラス）		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択 → ※3ですが、2が学生のみなので2を選択	2. 学生のみ	
チームメンバー数（公開）	10名		
代表者（公開）	平田希光		
メンバー（公開）	ウォッチョン美愛、平陽葵、野底さあや、長濱真亮、津覇梨緒奈、當山あかり、浜門優衣		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（[メンバー一覧ページ](#)を参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示-非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および
<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません）
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OK なら右欄の ○を選択 →

OK

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

<チームメンバー名簿：[メンバー一覧ページ](#)>

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は (1) アイデアの内容 (活動)、(2) アイデアの理由 (なぜなら)、(3) 実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容 (公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動 (サービス) を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

西原町は、観光地や交流の場としての魅力が不足しており、知名度も高いとは言えません。来訪者に西原町の魅力を感じてもらう新たな取り組みが求められています。既存の地域資源や取組などによる西原ブランドの形成と情報発信を行い、観光・交流面での知名度向上を図り、多様な人々・文化との融合、交流人口の拡大が図られる取り組みを必要としています。沖縄県に押し寄せる大勢の観光客には、県民同士のつながりやその温厚な性格に惹かれ、地元民とのふれあいを求めて来訪する人も少なくありません。そこで、まずは西原町内でのつながりを深めそれが街の魅力として発信され多様な人々との交流創出につながることをめざします。

これは私たちの目指す西原町のイメージです。

つながった子どもと大人が常に町内の広場（さわふじマルシェ）で気軽に集まって、西原町の魅力を感じてもらう新たな取り組みを一緒に考えます。



地域内で大人と子どもの関わりが多く、そのような人とのつながりの温かさに魅力を感じる観光客の皆さんが訪れ、賑わっている西原町を目指します。



※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみること）が大切です。

<提案するアイデアの内容>

特につながりが弱いと思われる「子どもと大人」がつながるしくみを作ります。

具体的には学生が地域の大人たちと一緒にあって、大人のみなさんからこれまでの人生で経験してきた、特に苦労や失敗とそれをどう乗り越えてきたかを話してもらい「ワクワクトーク」を行います。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）



ワクワクトークを実施することで、次のような変化が期待できるのではないかと考えます。人と子どものつながりを生み出すワクワクトークを継続していくことで西原町内でのつながりを深めそれが街の魅力として発信され多様な人々との交流創出につながる効果が得られると考えています。

【それを誰が？誰に？】

私たち NSBP+（エヌエスピープラス）が、町内の中高生と町内の企業などから大人の方々を集めて開催します。

【いつ、どこで、どのように??】

新年度の進級進学的环境変化により不安・悩みが多い4月、5月の時期に学校や公共施設において開催します。

開催場所は西原町内の学校や公共施設とします。

地域の大人たちと学生と一緒にあって、大人のみなさんからこれまでの人生で経験してきた、特に苦労や失敗とそれをどう乗り越えてきたかを話してもらいます。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考：以下のように理由を書いていきます>

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

西原町の課題として、

- ・観光や交流の場としての魅力の不足
- ・知名度の低さ

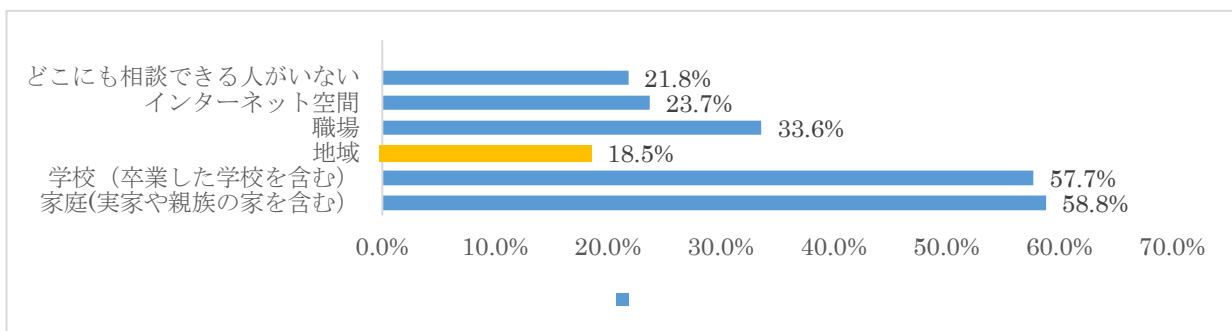
が挙げられます。しかし、沖縄県には毎年国内外からたくさんの観光客が訪れています。そこで、なぜ西原町には魅力が不足しているのかを調べてみました。

まず、沖縄にたくさんの観光客が来る理由を調べました。

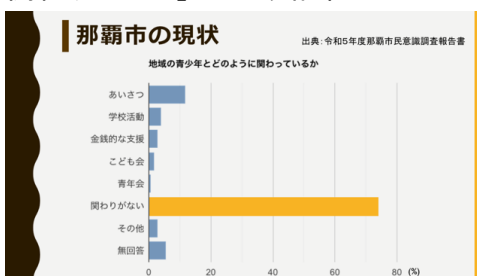
民間の観光サイトでは沖縄県について、

『住民同士や地域の人たちとの繋がりが強い地域もあり、困った際は助け合いながら生活しています。観光客に対しても、分け隔てなく出迎えてくれる人が多く、人とのふれあひも魅力です。』（出典：MAJUN OKINAWA）とありました。しかし、私たち自身の生活を振り返ると、そのようなつながりが十分に実感できていないと思いました。このことから、私たちは「地域住民のつながりが弱い」ことが観光としての魅力の不足、知名度が低いという課題の一つの要因であり、根本的な課題ではないかと考えました。この仮定を立証するためにデータを探しました。

令和4年版子ども若者白書（内閣府）によりますと、以下の項目の場所に何でも相談できる人がいる項目のうち相談できる人が地域にいる人の項目が「最も低い」ということがわかります。（出典：内閣府令和4年版子供・若者白書）



隣接する市の市民意識調査によりますと、地域の青少年との関わりについて7割強の人たちが「特に関わりがない」という結果が出ています。（出典：令和5年度那覇市民意識調査報告書）



西原町でも同様ではないかと考え、独自によるアンケート調査を実施しました。

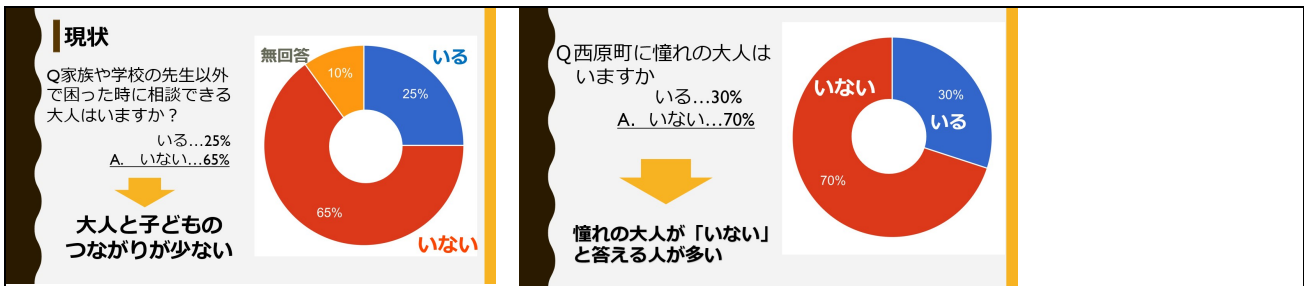
調査期間：2024年9月～10月

対象者：西原町在住又は出身の中学生～大学生

回答者数：241名

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）



以上の結果から西原町では子どもと大人の間が弱いことがわかります。

この課題を解決するために、私たち NS² 2BP+で大人と子どもの間を深める機会を作りたいと考えました。

その機会として考えたのが「ワクワクトーク」です。

これは以前西原町役場産業観光課が実施していた子ども向けの職業体験イベント「ワクワクワーク」からインスピレーションを受けたものです。

これらを踏まえ、「ワクワクトーク」を通して大人と子どもの間を深めることができるのかを調べるために実証実験を行いました。

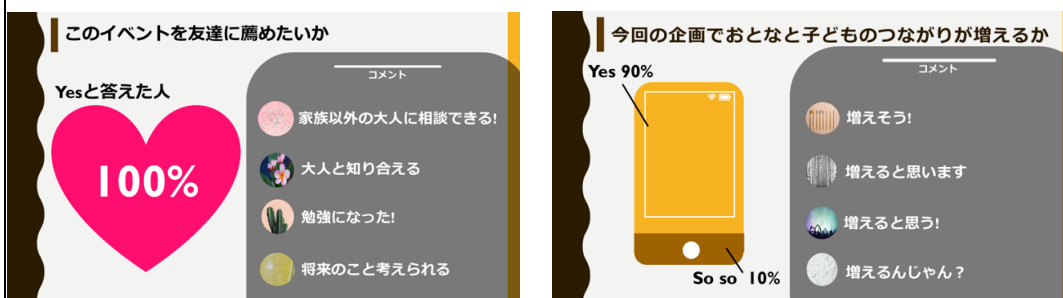
西原町役場職員の皆さんに協力していただき、高校生 15 名、役場職員 5 名の協力を得て「ワクワクトーク in 役場」を開催しました。

イベントの内容としては、

- ① 学生はゲームを通して仲を深め（アイスブレイク）、大人は体験談を語るためのワークショップ
このワークショップでは学生間の間も深めることができたので、良かったと思います。
- ② 人生のモチベーション表をもとに大人が学生に自身の失敗談とそこから得た教訓を中心に人生の話をする

このような流れです。

イベント後に参加者の皆さんにアンケートの回答をしていただきました。



感想として、

- ・ 今回の企画で役場にも相談できる人はいるのだと思った。
- ・ いろいろな意見が聞けてとてもいい時間になった。

大人の感想意見として、

- ・ 素敵な取り組みだと思います。
- ・ この活動は拡大するべきだし必要だと思った。

以上の結果から、「ワクワクトーク」を通して大人と子どもの間を深められる可能性が非常に高いということがわかります。また、今後イベントの規模を拡大し多様な人々または企業を招いて実施していく必要があると考えました。

(2) アイデアの理由（公開）

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきますか

<以下のように分けて書いていきます>

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1. 実現する主体

西原町の課題解決に取り組む高校生チーム NSBP が継続的にを行います。毎年、約40名が在籍しているため、実施主体として問題ないと思います。

2. 実現に必要な資源

ヒト（学生 100名、大人 20名）

（学生）

これまでの各種事業など協働取り組みにより、教育委員会とも信頼関係が築き上げられているため、教育委員会の協力もいただきながら目標達成します。

（大人）

すでに協力関係にある西原町産業観光課、西原町観光まちづくり協会、西原町商工会議所の協力をいただきながら多様な職業・経験のある方々に参加していただきます。西原町長、教育長からは協力支援の返事はいただいています。

モノ（会場、教育機関）

会場は学校や公共施設を利用します。日ごろから他の活動等で利用しているため同様に使用することが可能です。西原町内にある琉球大学、沖縄キリスト教学院大学とは地域社会の発展をめざして包括連携協定が結ばれており、これまでも連携協力の実績があり、今回も効果的なプログラム作成や効果測定などで協力依頼を考えています。

カネ（飲み物・お菓子代 10,000円）

当日楽しい雰囲気づくりのためにおいしいお菓子とジュースがほしいのですが、参加する大人のみなさんに協力をお願いしようと考えています。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

【STEP1】課題発見・設定<完了>

【STEP2】ワクワクトーク実証実験、効果測定、振り返り<完了>

【STEP3】ワクワクトーク拡大実施 4月～5月

多様な職業・経験のある方々を招いての拡大開催

【STEP4】アイデア創出、アクションプラン作成 6月～9月

子どもと大人が一緒に考える場をつくり、西原町の魅力を感じてもらおう新たな取り組みを創出。

【STEP5】取り組み実施、効果測定、振り返り 10月～3月

西原町が魅力的になるまでのホップ・ステップ・ジャンプ



- STEP5 町外からも魅力的になる
⇒町外から人&経済的にも活発
- STEP4 学生と大人と一緒に話し合う
⇒課題解決のアイデアを見つける
- STEP3 ワクワクトーク拡大
⇒町全体が活性化
- STEP2 ワクワクトーク実施
⇒大人と子どものつながり深める
- STEP1 イベントの企画
⇒きっかけ作り